

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1495100065	事業の開始年月日	平成19年2月1日	
		指定年月日	平成19年2月1日	
法人名	(株)ヘルシーサービス			
事業所名	小規模多機能ステーション ガーデンコート川崎			
所在地	(〒212-0053) 神奈川県川崎市幸区下平間357-2			
サービス種別 定員等	<input checked="" type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護 <input type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	25名	
		通い定員	15名	
		宿泊定員	5名	
		定員計	名	
		ユニット数	ユニット	
自己評価作成日	平成26年11月14日	評価結果 市町村受理日	平成27年4月7日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>・ご登録いただいているそれぞれのお客様のやりたいことや出来ることを最大限尊重し、ここに来て楽しいと感じてもらえる施設を目指しております。 そのためのスキルを習得するため内部・外部の研修に積極的に参加するようにしております。 現在は地域といかにかかわっていくかを模索しています。</p>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	神奈川県横浜市西区南浅間町8-22-207		
訪問調査日	平成26年12月10日	評価機関 評価決定日	平成27年2月10日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>【事業所の優れている点】 ◇小規模多機能型居宅介護にて利用者へのサービスに徹する事業姿勢 ・管理者は、小規模多機能型福祉の理想の形を、地域の諸機関の協力と助言を得て、利用者を24時間見守り「通い」、「訪問」、「泊り」の効果を充分活かせるように、ケアマネージャーと協力してケアプランの作成に腐心している。 ◇利用者本位の介護サービスの実践 ・管理者は、職員との会議、面談をとおして「利用者本位の福祉」の原点に立った福祉介護のあり方、考え方を説明している。この結果、職員一人ひとりが地域の老人福祉の先駆者としての自覚が芽生え、地域への事業所宣伝の一翼を担っている。</p> <p>【事業所が工夫している点】 ◇「ご利用状況表」の活用による、家族、事業所間の意思の疎通 ・利用者一人ひとりのサービス提供日誌「ご利用状況表」ファイルを、利用者が帰宅する際家族に手渡して、家族意見を記入してもらっている。この「ご利用状況表」には職員の気付き、ケアプランの実施状況も記載され、薬の袋も同封され効果的に運用されている。</p>
--

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	小規模多機能 ガーデンコート川崎
ユニット名	—

V アウトカム項目	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者の
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいの
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいの
	<input type="radio"/> 4, ほとんど掴んでいない
57 利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/> 1, 毎日ある
	<input type="radio"/> 2, 数日に1回程度ある
	<input type="radio"/> 3, たまにある
	<input type="radio"/> 4, ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない

63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族と
	<input type="radio"/> 2, 家族の2/3くらいと
	<input type="radio"/> 3, 家族の1/3くらいと
	<input type="radio"/> 4, ほとんどできていない
64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ毎日のように
	<input type="radio"/> 2, 数日に1回程度ある
	<input type="radio"/> 3, たまに
	<input type="radio"/> 4, ほとんどない
65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/> 1, 大いに増えている
	<input type="radio"/> 2, 少しずつ増えている
	<input type="radio"/> 3, あまり増えていない
	<input type="radio"/> 4, 全くいない
66 職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての職員が
	<input type="radio"/> 2, 職員の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 職員の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族等が
	<input type="radio"/> 2, 家族等の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 家族等の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念は、事務所に掲示しており、入社時オリエンテーションやミーティングの際に社是や理念について意識付けしている。	・職員総意で作成した「利用者本位の原点に立った福祉サービス」を目標に、小規模多機能型居宅介護事業の「通い」、「訪問」、「泊り」を通じて地域に密着した介護の実践に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議等を定期的に行い、地域住民や民生委員を招いている。しかし地域との交流はまだまですら今後の課題である。	・町内会に加入し、地域の祭りなどに利用者、職員ともども見物に出掛け、事業所の納涼祭には地元の人を招待している。 ・周辺道路の掃除には、隣のガス会社社員と協力して、利用者、職員で参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の介護相談所や小中学生の職業体験の場などとして利用してもらい、もっと地域に貢献していきたい。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	概ね2ヶ月に1回実施しており、幸区役所・地域包括職員、地域の民生委員、地域代表、利用者、ご家族に参加いただき状況等を報告したり、相談する場を設けている。	・運営推進会議は、家族、民生委員、地域住民、幸区職員、地域包括支援センター職員が参加して2か月ごとに開催している。小規模多機能型サービスを広く地域に宣伝すべきとの提案もあり、現在準備を進めている。	運営推進会議参加者の意見を受けとめ、地域密着型小規模多機能型サービスの内容を広く地域に知らせる工夫が期待されます。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	幸区の担当者を始め、かしまだ地域包括支援センターの職員や川崎市の担当者と密に連絡を取り、相談や助言を求めたりしている。	・特に配慮が必要な利用者に関して、川崎市、幸区、地域包括センターの担当部署の助言を得ている。また、徘徊の事故なども行政機関の協力を得て、事なきを得た実績もある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する研修を行っており、職員に周知徹底している。今後は管理者や主任・リーダーに随時、身体拘束排除研修を受講させていく予定。	・職員は入職時に「身体拘束廃止」に関する研修を受け、事業所内研修で介護のあり方を振り返り確認し合っている。 ・施設内は施錠していないが、外扉は防犯上、全利用者家族の了解を得て施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	上項目同様、研修会を行っており周知徹底している。また具体例や事例検討を行い職員が理解できるよう努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する研修会は拠点会議の中で実施、周知徹底している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	改定等を行う場合は入居者本人もしくはご家族に説明を行い、契約書や同意書を取り交わすなど配慮している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者アンケートを定期的実施し、その結果をご家族にお送りして改善点を具体的に明示したり、事業所に掲示している。	・利用者一人一人の「ご利用状況表」は、帰宅時に家族に手渡し、次回利用の際に家族が意見等を記入して、意思疎通を図っている。 ・月1回発行の「ガーデンコート通信」は家族要望により実施した。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	拠点会議やミーティング等で意見の集約を行い、すぐにできることは対応したり、決裁案件は時期をみて上司に報告しコンセンサスを図っている。	・職員意見・提案は、可能な限り実施しており、利用者一人一人の専用スペースを持つ掲示板の設置やマイク形式カラオケ導入など実現している。備品管理の「不足品のボード（記入用）」は職員に好評である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	必要に応じて職員と面談をしたり、会議に出席して職場環境や勤務状況を把握している。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人として新入社員育成のプログラムや同行研修の実施等、複数ある拠点のメリットを最大限に活かしながら、研修できる場を提供している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	管理者研修として同法人内他事業所の研修に参加したり、川崎市の事業所連絡会に参加するなど、交流を図る取り組みを行っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初動アセスメントを時間をかけて実施し、ご家族の意見も求め要望等を把握し、お客様が安心して入居できるよう配慮している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初動段階でご家族から情報や要望を頂き、介護計画に反映させている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用開始前にインテークをしっかりと行うことで、本人やご家族の要望をしっかりと把握し、利用開始直後に不安を軽減できるよう配慮している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	慣れてきたら手伝い等できることを職員が声掛けし、生活の中で孤立したりしないよう職員と共に行えるよう配慮している。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	事例に基づき、家族や職員を含めてサービス担当者会議を実施し、ご家族に理解を求めながら支援を行っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	馴染みの人の面会や、外泊をご家族にお願いするなど関係が途切れないう配慮している。	<ul style="list-style-type: none"> ・「通い」や「泊り」を友人との面会、談笑の場としている利用者もあり、お茶でもてなし歓迎している。 ・馴染みの地元商店での買い物には、職員が付き添っている。 	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の中に職員が入り、最低限の関係を築けるよう配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去の際、ご家族の相談にのったり、その後もフォローを行い、ご家族が安心できるまで関係を継続している。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	職員と計画作成担当者が日々のミーティングの中で事例検討を行い、意向の把握に努めている。	・利用者との会話は、内容を深めるため試行錯誤を行いデータを集めて、その人に合った意向の把握の仕方を模索している。 ・利用者の思いを把握できるように、専門講師を招いてスキルアップを図っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	お客様の生活歴や暮らし方を職員が把握し、支援経過に生かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	お客様の心身状態は、日々変わることもあるが、落ち着いて生活できるよう配慮したり、その方の能力に見合ったことを自立支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	必要に応じて主治医・看護師・ご家族・管理者等でカンファレンスを実施、お客様の課題を分析して計画書を作成するよう努めている。	・介護計画は専属ケアマネージャーを中心に現場スタッフ、管理者を交え、看護師、主治医の意見も合わせ、カンファレンスで作成している。計画は6か月ごとに見直しているが、状態に変化が出れば、随時見直し、その都度家族の理解を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員は早番・日勤・遅番・夜勤と個々に個人記録を記入させ、それをミーティングや申し送りの場で検討し、介護計画の見直しに役立っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療依存度にもよるが、例えば病気の進行によりADLが落ちた場合でも状況によってお客様の変化に応じたサービスが提供できるよう、多機能化に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	幸区や地域包括職員、町会関係者から地域資源等の情報を頂き、お客様の支援に活かしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携医療機関との関係を築き、少しの体調変化でも相談できる体制づくりに努めている。また担当看護師とは24時間連絡が取れる体制をとって、支援につなげている。	・長期「泊り」の利用者は、事業所提携医との契約を勧めているが、その他はかかりつけ医で受診しており家族と通院している。 ・利用者の容態急変時には、提携医を利用することについて家族の事前理解を得ている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週月・木曜日に派遣ではあるが看護師が勤務し、職員とのコンセンサスを図りながら、お客様の健康状態を把握している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族と入院中の担当医師との連携を密にし、退院前のムンテラに立会い、施設に戻られた時の支援に反映させている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の支援について、本人やご家族の意向を把握し、場合によっては同意書を取り交わし支援を行っている。	・法人方針でターミナル対応は行わないが、「泊り」の活用で利用者家族の介護負担を軽減できるように協力対応している。 ・「泊り」対応中の利用者容態急変には、救急車手配について家族の了解を取っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応は現場の見える位置にフローチャートを貼り付け、職員が迷わず即対応できるよう配慮している。特に夜勤者には連絡網や急変時の対応説明を周知徹底している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時の対応に関しては、避難訓練等を実施し、職員に周知徹底している。今後、避難訓練実施の際、地域住民も招いて実施していきたい。	・年2回の避難訓練では、夜間を想定して「泊り」対応職員と併設グループホーム職員2名の計3名体制で実行し、通報の仕方、車いすの運び方など問題点が浮かび上がり、対応策を検討した。 ・非常食、水などを備蓄し、リストにて管理している。	地域住民や消防署、警察署などと連携を図り、事業所の災害時対策について理解を深め、協力体制を築かれることが期待されます。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員にはお客様への言葉掛けや接し方等の接遇に関する勉強会を実施したり、個々の職員に注意を呼びかけたりしている。	・職員はプライバシーの遵守や接遇について研修やマニュアルで周知し、支援している。 ・話しやすい雰囲気作りで信頼できる関係を築き、人生の先輩者に対しての言葉かけが自然にできるようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	お客様の希望をストレートに聞くのではなく、認知症の方の症状を理解した上で、選択肢から選んでいただいたりするなど、職員に考えさせて支援を行うよう指導している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お客様の個々のペースに合わせて支援を行うよう指導している。例えば眠いというお客様がいたら、レクの時間でも無理に体操を行っていただく等、配慮させている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	女性のお客様には、お客様の同意の下、お化粧品したりマニキュアを施す等、配慮している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援	食事はお客様に下膳やおぼん拭きを手伝っていただくなど、できること	・業者から調達した食材を職員が調理し、季節の果物を添えたり、パン	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
		食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	利用者一人ひとりの好みや病状に合わせ柔軟に対応している。 ・利用者と一緒に準備や食事を楽しみ、敬老会や納涼会などの特別食で食欲を高める工夫をしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取に関しては、食事時と10時、15時、夜間と行い、栄養状態低下や水分不足のお客様にはラコールやエンシュアを提供し対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、義歯のお客様は義歯を外した上で口腔ケアを行ったり、自立のお客様に関しても声掛けを行い、実施を促している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	お客様の排泄パターンに合わせた支援を行いつつ、布パンにパットを使用したり、日中は布パンで夜間のみリハパン等の支援を行っている。	・排泄チェック表で利用者の排泄リズムを把握し、パターンに合わせて言葉を掛け支援している。おむつはずしが成功した事例がある。 ・排泄拒否や言葉にできない利用者にはプライバシーに配慮しながら対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘気味のお客様は医師が処方した便秘薬以外に牛乳を提供するなど、便秘対策を行っている。それでも解消されない場合、看護師や医師の指導の下、チャルドール等を服薬いただく等の支援をしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴の曜日や時間帯を決めているが、入浴の順番は担当職員に任せ、お客様個々の希望も配慮しつつ、入浴を実施している。	・個浴や2人浴が楽しくできるよう個々の湯温や入浴時間に配慮し、対応している。 ・入浴の心地よさが伝わるよう石鹸の匂いやドライヤーの音で雰囲気作りに配慮し、入浴拒否の利用者の気分が変わるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中も90代の高齢の方はベッドに臥床いただいたり、その方の身体状態に合わせた睡眠サイクルを把握した上で、支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の副作用に関しては、職員にできるだけわかるよう説明文を職場におとし、職員が安心して投薬できるよう配慮している。その後の変化についてもすぐに報告させるよう周知徹底している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	アクティビティや外気浴、散歩、レク等を毎日行う中で、お客様のストレス解消や気分転換を図っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的に散歩を取り入れたり、外気浴を実施している。また、ご家族にも支援を仰ぎ、外出や外泊等も協力いただいている。	・利用者のその日の希望に合わせて、散歩や敷地内の野菜や花木への水やり、スーパーでの買い物などの支援に努め、車椅子の方も車を利用して公園での花見みや紅葉狩りに出掛けている。 ・泊まりの利用者は、家族の支援で墓参りなどにも出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お客様によっては、小額ではあるがご自分で財布を管理されて買い物等で消費される方もいらっしゃり、個々の管理能力等に配慮している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を希望されるお客様は、特に制限することなくかけたい時間に実施している。また、手紙等もお客様によっては実施されている方もいらっしゃる。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は季節感を出すよう、夏場はすだれを用意したり、レクで夏にちなんだ折り紙等を貼り付けたりしている。またお客様が不快と思われることがないように日々、環境整備を定期的に行っている。	<ul style="list-style-type: none"> ・四季に応じた快適な環境が保持できるよう生活支援マニュアルに沿って、室温、湿度、換気、衛生管理に努めている。 ・共用スペースには季節に合わせた手作り作品や行事の写真を壁に掲示し、季節感を出している。 	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間には日光浴ができる場所、ソファや一人でのんびりできる場所等に配慮した環境を提供したり、配置換えをたまに行っている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	お客様本人の馴染みのタンスや装飾品をお持ちいただき、ご自分の部屋と認識いただけるよう配慮している。これまで他のお客様の居室と誤認識される方は、ほとんどいない。	<ul style="list-style-type: none"> ・居室にはタンス、ベッド、寝具などを備え、利用者の日常生活動作に合わせてベッドの配置などに配慮している。 ・利用者は写真や時計、馴染みの物を持ち込み、安らげるよう工夫している。 	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	館内のトイレ、浴室、エレベータ等の位置関係はお客様個々が理解できるよう配慮している。また、ご自分でできるよう最低限の支援を基本として自立支援を行っている。		

目 標 達 成 計 画

事業所名 小規模多機能ステーション
ガーデンコート川崎

作成日 平成27年2月20日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	2	地域において小規模多機能が果たすべき役割が明確ではない。	地域の方に認知していただく。地域介護に貢献する。	まずは、この事業所を知っていただくことから始める。その後この地域の中でどのような役割を期待されるかを探求していく。	1年間
2	3	地域に当事業所が知られていない。地域の中での役割が明確でなく、また果たせていない。	地域の中での認知度を上げ、地域の介護について役立つ事業所となる。	運営推進会議の参加メンバーを再考し、自治会長など地域住民の方に積極的に参加いただくようにする。	1年間
3	13	防災訓練は実施するも事業所単体で行っており、地域の住民を巻き込んだものになっていない。	近隣住民の方も参加していただく、総合防災訓練の実施。	来年度の研修計画を早期に作成し、近隣住民への参加をお願いする。また、消火器の使い方講座などを消防署と連動して行い、近隣の方にも有意義なものとする。	7月までに
4					
5					

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。